

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572108645		
法人名	バンドーケアポート株式会社		
事業所名	グループホーム バンドー北欧の里		
所在地	秋田県北秋田市下杉字上清水沢15-1		
自己評価作成日	令和5年10月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念である「住み慣れたこの地域で笑顔を絶やさずいきいきと」を心がけ、ホーム内の明るい雰囲気作りに努めている。新型コロナウイルス感染予防の為、現在は外出行事を中止しているが、通常はホーム行事の計画などは「馴染みの場所」等を話題に、入居者の皆さんと相談しながら計画をし全員参加型の実施に努めている。地方新聞や市の広報を定期的に取り寄せ、地域の情報に触れていただきながら、話題の繁栄や共通化に繋げられるよう活用している。全介護従事者が1・2名の入居者様を受け持つ「受け持ち制」をとっており、持ち物の管理・居室の整理整頓を心がけカンファレンスの際は受け持ち介護員が中心となり、ケアの方針を決め充実したモニタリングに努めている。認知症介護に関するテーマごとの内部研修を計画的に行い、認知症ケアに対する理解を深めて行くように情報共有を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍に加えて周辺に熊の出没が確認され、利用者は外出に代えて廊下を歩き、手すりを利用して運動しています。人家が周辺になく、地域住民との触れ合いが困難であった状況を運営推進会議を活用して地域との交流促進や協力体制の充実を図ってきた経緯があることから、管理者の交代があって日々の業務に忙しさを感じていることとは思いますが、今後も運営推進会議を通じて地域の関係団体に働きかける等して交流の拡充を図り、理念に則った利用者の暮らしに繋げていく取り組みが期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念の「親孝行」を基に、事業所理念を「住み慣れたこの地域で笑顔を決やさずいきいき」と掲げ、カンファレンスや申し送り時(申し合わせ)に職員の意識を高めている。	毎月会議の前に理念の確認を行い、日常のケアの場面において実践できるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の観点から、地域に出向いたり交流を行うことは困難な状況であるが、収束した時には、交流が出来るように再開していく。	感染防止及び熊対策のために外部との交流は難しく、地域住民、家族を招いて行われていた夏祭りは中止しており、ホームから地域行事に出向くこともありませんが、訪問美容は地元の方をお願いしています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議や行事などを通じて、グループホームの日常生活や対応、支援の方法などを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、2ヶ月に1度紙面会議を開催し、議事録を委員の方々に郵送してご意見等アドバイスを頂き、参考にさせて頂いている。運営会議委員の方々に議事録を郵送し情報を共有している。今年度9月からは、対面での会議を再開している。	ホームの現状を報告し、意見を運営に反映できるよう努めています。地域の理解と協力を得るためにも参加者に積極的に関わっていただけよう進行の仕方を工夫し、会議を運営に活かす取り組みを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の担当者とは、メールや電話で連絡を取ったり、直接出向いて手続きや相談をするなど連携を図っている。	福祉事務所他、関係部署と必要に応じて連絡をとり、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束ゼロ対策委員会を発足し3ヶ月に1回会議を開催している。年2回は内部研修を行い、身体拘束に対する知識を高め、職員への周知の徹底を図っている。	研修等を通じて職員の理解を深め、身体拘束、虐待のないケアに取り組んでいます。業務中の気になる事案についてはその都度話し合っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回の内部研修を行い、職員への周知を図っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行なう事でご理解を頂いている。不安な事や不明点はその場で説明する事で納得して頂き、同意を得ることが出来ている。改定時には直接連絡、説明する事でご理解が得られるように努めている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	面会や電話、ホームだよりにてご家族様へ近況報告を行い、利用者様の状態をお知らせする事で、ご家族様に安心して頂いけるようにすると共に、ご意見やご要望を頂けるようにしている。利用者様とはお一人ずつ会話をしながら思いを伺ったりしている。	管理者が着任してから約1年の間に家族の意見等はなかったようです。年1度法人本部から家族宛に意見書を送付し、直接意見、苦情を聞く機会をつくり、意見があった場合は早急に対応できるように取り組んでいます。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	管理者は日頃より職員の意見は大切にすることを心がけ、更に月一回のカンファレンスでは「連絡事項・業務検討」の項目を作り一人一人意見をもらう様にしている。代表が来所することもあるが、その他に本部職員参加のリーダー会議で検討した内容を代表に報告してもらっている。	職員は日頃から気づいたことを管理者に伝えている他、管理者は会議や業務中に職員から出た意見を法人に伝えています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は管理者が地域の介護に関わる委員会に参加する機会を多く持たせるよう取り計らっている。又、職員は介護従事者の自覚を持ち日常的に地域の方々との交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者はサービスを導入する段階で家族、担当ケアマネージャーよりお話を伺った情報から、センター方式でアセスメントをし、職員と情報を共有する為のモニタリング・更にプランを準備し、入居と共に即プランが実施ができるようにしている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の意向の確認を取らせていただく際より、会話で良い関係ができるよう対応している。ご本人との面談にはなるべく同席していただき面談後はご家族様とお話する時間を作ることで初期計画に取り入れる内容の聴取に努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を持っていただけるように「あいさつ・声かけ・スキンシップ」など本人の好みを掴み関われるようにしている。又ご本人の能力ややる気に合わせた共同作業なども心がけている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子については毎月近況報告を送り、日常生活の様子等お伝えしている。ホーム行事についてはコロナウイルスの感染予防の観点からご家族への案内を控えているが、収束時には再開する。バンドー通信や運営推進会議の議事録などもご家族に郵送し情報共有に努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	かかりつけ医への通院を継続する事で馴染みの関係を継続できる様に配慮している。通院中の待ち合いでの知り合いの方との交流も大切にしている。地元の美容師の訪問を受けている。	馴染みの場所に行きたいという希望が少なくなってきていますが、家族とは電話でやり取りをしています。地元の美容師に来ていただき、馴染みの関係づくりに協力していただいています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業やレクリエーション・行事参加をお誘いしながら「共有できる事」に努めている。又その作業が直接他者への支援になるようなこと(下膳・テーブル拭き・洗濯物の運びなど)を行い、お互いに支え合いながら生活が送れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動された方の移動後の状況を伺ったり、困りごとがないかなど必要に応じて連絡を取っている。退去時にご家族様へも今後も遠慮なく相談していただける事を伝えており、その後のお付き合いも継続している方がいる。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努、これが困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話中から、ご本人の好きな事や興味のある事などをさりげなく伺い、希望していただけるようにしている。又、困りごとや体調についても会話や表情などから伺えることもあり、気にかけて対応している。	日常の関わりの中で利用者の思いを把握し、暮らしに反映できるように努めています。業務日誌等で情報の共有を図っています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から居宅支援事業所・ご家族との連絡を密にとり、ご本人の情報収集に努めている。早めに入居時の「個人情報」を作成、アセスメントをもとにご本人が希望されている内容が把握ができるように努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を取り込んだ計画作成に取り組んでいる。カンファレンス時にはモニタリングに沿って問題点などの意見や情報をいただきながら介護計画に反映できるようにしている。	カンファレンスで職員が話し合い、管理者が介護計画にまとめています。家族の意向も確認しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	「暮らしのシート」記録の内容の充実を図り、業務日誌での継続した関わりが必要な事柄が伝達され、職員全員が情報を共有できるように努め、実践・計画の見直しに生かしている。更に、ファイルの内容の充実に努め、管理を厳重にしながらも職員が見やすい場所へ保管をしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通常では、地域の行事参加を心がけ、又、運営推進会議参加の皆様からのご意見や行事参加をいただき、交流の機会を沢山を持つことができている。医療機関との関わりも強く、ご本人・ご家族の意向を考慮した相談がしやすいようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師の他に、協力医療機関として内科クリニック、歯科医との契約が取れており、薬局においても地域薬局と近所の薬局、二か所と連携がとれている。医療機関との連携が取れている事で、本人・家族が相談がしやすいような環境を作っている。	入居前からのかかりつけ医で継続受診しています。職員が通院介助しており、歯科受診の必要があればその際にも職員が対応しています。状況に応じて家族に連絡しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が、日常の関わりで気になった事、心配な事を法人内の看護師や通院先の看護師等に相談し、適切な受診を受ける事が出来るように支援している。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院と共に医療連携室との連絡を密にすることで、安心した治療や退院後の不安がないような対応を行っている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りについて指針を説明している。身体状況に応じてその都度ご家族、医療機関との話し合いを持ち方針を共有している。職員間でも高齢者に起こりうる急なことも含め学習に取り入れている。	看取りに対応していないことを説明しており、状態の変化に応じて話し合い、法人内での対応等、次の支援に繋げています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者中心に対応しているが、不在時も正しく適切に対応できるように情報を共有し、必要に応じて電話で報告を受け指示をしたり、駆けつけるようにしている。応急処置の仕方を習得するため内部研修により知識を習得している。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災ラジオの活用や年2回の避難訓練を実施し職員ひとりひとりの意識を高めるように努めている。現在は新型コロナウイルス感染症予防の観点からご家族や地域の方の参加は見合わせている。	コロナ禍でもあり、ホームの職員のみで避難訓練を実施していますが、夜間の災害時の避難については職員の不安もあり、課題も残っています。	運営推進会議を活用し、地域の協力体制等、具体的な話し合いを行い、夜間の職員の少ない時間帯に利用者、職員が安全に避難できる対策を検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の特徴や好みの声かけ・言葉遣いを心がけながら1対1での会話を持ち、思いを尊重している。又、個人情報の保管・管理を厳重にして個人情報保護も留意している。	失禁の際にはさりげなく対応する等、その人の誇りを損ねないように配慮しています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身の望む事を叶えられるように努めている。(目的や季節に合った衣類の選択含め)外出時には帽子やバックの使用も声掛けしている。起床時・就寝時に保湿クリームや乳液をつける方には切らさない様に考慮している。洗面所にヘアブラシも常備している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節行事やイベント時には好みなどを伺いながら楽しんで頂けるように配慮している。また、食器やホールの環境などを工夫し、季節を感じながら食事をして頂いている。	山菜の下拵えやきりたんぼづくりには利用者の力が発揮され、お菓子づくりを皆で行ったり、花見弁当を提供していつもと違う雰囲気を楽しんでいただくこともあります。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士にカロリーチェックを含め一週間分のメニュー(写真付き)と食材の種類や量を提出し評価アドバイスをもらっている。更に毎日の食事や水分の摂取量をチェックし記録している。月一回及び必要に応じての体重・BMIの測定など行っている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施を行っている。義歯は每晚入れ歯洗浄剤を利用し、清潔が保てるように配慮している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握する事で時間でのトイレ誘導を行っている。失禁や失敗の時はさりげなく対応する事で本人の自尊心を傷つけない様に配慮している。	チェック表を活用してその人のパターンに合わせて誘導し、トイレでの排泄に繋がっています。費用負担に配慮し、本人の排泄状況と共にパッドの使用状況を家族に伝えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	習慣的な「便秘」に関しては医師との相談で緩下剤を処方頂き、排便の状況に合わせて柔軟に量の変更をし調整している。経口的には「野菜・水分・果物・牛乳」など取り入れる様にしている。腹部のマッサージや毎日の廊下散歩などお勧めしている。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴日を設けているが入浴日以外の方は足浴をしている。受診や面会・ご本人の希望に合わせて便宜行っている。又、適宜陰部洗浄も行い、発汗の多かった日などは入浴やシャワー等お誘いしている。	強く拒否する方もなく、週2回の入浴日にはゆっくり入浴できています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後30分以上は横にならないように心がけているが昼午睡・居室で過ごす時間・就寝時間などご本人の希望に合わせて自由にして頂いている。夕食終了後、就寝を希望される方がいらっしゃるので、ご本人の行動に合わせて就寝準備などしつつ、ホールで眠くなるまで過ごす方にはお付き合いなどしている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報はファイルに綴っている。その薬効や副作用など記載されており常時職員は見られるようにしている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	通常は天気に合わせて中庭散歩、山菜取りやその下処理・地域の行事への参加等、その方の興味ある内容を探りながら関わっている。現在は新型コロナウイルス感染予防の為、屋内でのレクリエーションやアクティビティを中心に、皆で参加できる内容を加味し行っている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご自分から外出を希望される方はホーム庭の周辺散歩をお誘いしている。通院時のドライブも大切にしている。新型コロナウイルス感染症が収束した場合には、再度外出の機会を設けていく。	コロナ禍であり、更に周辺に熊が出没したこともあり、近くの公園に出かけることもままならず、通院が外出の機会となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方はいない為、現在は管理者がお預かりしている。その中から、通院や消耗品の他、ご本人のご希望の物を購入している。 ご本人と出かけた際など少額であれば見守りながらレジで支払う体験などしていただいている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・居室の床下には備長炭が敷き詰められ消臭効果が期待できている。湿温度計に添った温度の維持、常時加湿器や空気洗浄器を稼働している。季節折々の行事に合わせて「切り絵」の張り物や他飾り物など利用者様と職員と一緒に準備しホールに飾り季節を感じることができるようになっている。	利用者が少しでも快適に過ごせるように除湿器や市販の除湿グッズ等で湿気対策をしています。家族が訪れた時に一緒にみることができるように行事の際の写真を綴って棚に置いています。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	正面玄関や裏の出入り口の長椅子等も、暖かい時期は外を眺めながらの憩いの場所となっている。長い廊下を利用し散歩を楽しんで行っている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご希望の物はいつでもお持ちいただけるようしている。テレビのアンテナラインも各室引かれており、希望の方は視聴する事ができる。位牌や遺影など持参されている方もいる。	入居時には使い慣れた物の使用を働きかけています。収納スペースがあることで室内は整然としており、ベッドの位置、頭の向きは本人の希望に合わせています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所・浴室は分かりやすい様に表記し、居室入口にも自分の部屋と分かるように、ご希望に合わせて写真や名札をつけている。場所が分からない方には自尊心を傷つけないように、覚えて頂けるような誘導を心がけている。		